主体的・対話的で深い学びの実践シート（農業、水産）

1　日時・場所	平成７年９月12日（金）１、２限		緑化棟１階	
2　対象・人数	環境デザイン科　緑化コース　２年生　12名			
3　科目・単元名	総合実習		地被植物の利用、繁殖、管理	
4　本時の目標	地被植物を自分たちで選んで適切な株分け、鉢上げをする。			
5　生徒の実態や課題	２年次の進級時に緑化コースを選択した生徒の集まりで、１年次に学んだ知識を生かして実習に取り組むことができる。 実習では周りの生徒と協力して取り組むこと、次に何をやればよいかの判断が不十分である。			
6　アントレプレナーシップ醸成の場面	(1) 自分たちで地被植物を選ぶことで、主体性をもって実習に取り組む。 (2) 地被植物の株分けや鉢上げで、効率よく多くの生産品を作成し、コストを下げる。 (3) 原価計算することで、市場の価格を知り、作成したものがどのくらいの価値があるか知る。 (4) タブレット端末の使用やグループでの話し合いで、どのような生産品が消費者に好まれるかを知る。			
7　ＩＣＴ活用	レポート作成の際にタブレット端末やスマートフォンを使った調べ学習			
8　準備・打ち合わせ	(1) グループ分け（名簿順） (2) 実習教員との連携 (3) 道具等（ブルーシート、バケツ、フネ、IBS１号、土入れ、３号ポリポット、鹿沼土、赤玉土、マグアンプ）			
9　仮説	(1) 株分けや鉢上げが必要な地被植物を自ら選び作業することで、主体的に実習に取り組めるようになるだろう。 (2) グループに分かれて実習を行うことで、お互いに効率のよい作業方法を話し合い、実践することができるだろう。			
10　評価するポイント	評価の観点	Ａ（十分に満足）	Ｂ（おおむね満足）	Ｃ(努力を要する)
株分け・鉢上げする能力を発揮することができるか。	知識・技術	不明な点は質問し、株分け・鉢上げが適切にできる。	不明な点を質問するが、株分け・鉢上げが適切にできない。	不明な点を質問せず、株分け・鉢上げが適切にできない。
グループで試行錯誤しながら実習に取り組むことができるか。	主体的に学習に取り組む態度	グループ内で自分から積極的にコミュニケーションを図り、取り組んでいる。	概ねグループ内でコミュニケーションを図りながら、取り組んでいる。	グループ内でコミュニケーションが図れず、一人で取り組んでいる。

11　主体的・対話的で深い学びの場面	 どの地被植物を選べば一番収益が出るか考えている	 均一なものをたくさん生産できるように、話し合いながら取り組んでいる
12　生徒の変容	これまで指示された植物を株分け、鉢上げしてきたが、自分たちの選んだ植物を生産することで、より積極的に地被植物に愛着をもって実習に取り組めた。また「商品であること」を強調することで、お客様によいものを多く買ってほしいという気持ちが芽生え、より正確に、たくさんの鉢上げをすることを目標にして取り組むことができた。 実施後に行ったアンケートの結果、生徒の実習への主体性及び協働性が更によくなった。また、将来の仕事を意識して取り組めたかという質問に対して、生徒の自己評価はよくなり、アントレプレナーシップが育まれた。	
13　検証と考察	(1) 株分け、鉢上げをする植物の選択を生徒自身が行ったことで、自分たちで考えて主体的に実習を行うことができた。 (2) グループ内でお互いに指摘し合いながら、より早くたくさん生産しようと協力して進めていた。1年時で身に付けた技術により、手際よく品質のよい生産品を1.5倍に増やすことができた。そして、最後に原価計算を行い、1ポット約285円（人件費込み）かかることも知り、自分たちの製作したものの価値が分かった。本校では1ケース（24鉢）1,000円で販売しており、事前のアンケートでは適正価格と考える生徒もいればそう思わない生徒もいた。	
14　振り返りと改善	緑花木に興味・関心のある生徒たちが、グループに分かれ作業をすることで、より積極的・効率的に実習に取り組めた。 改善すべき点は、現在の販売価格が市場の適正価格ではないため、これを解消するために、生徒が主体となって商品のブランド化を考えたり、ポップを作り商品の販売促進をしたりすることが今後の課題である。また、生徒に考える機会を設け、実習の時間配分を自ら考えるなど生徒の主体性を育てていくことが必要である。	